

2020年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年5月12日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4572 URL <https://www.carnabio.com>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)吉野公一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長 (氏名)山本詠美 (TEL)078-302-7075
 四半期報告書提出予定日 2020年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第1四半期の連結業績(2020年1月1日~2020年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第1四半期	335	97.1	△165	—	△168	—	△184	—
2019年12月期第1四半期	169	△19.5	△233	—	△235	—	△236	—

(注) 包括利益 2020年12月期第1四半期 △185百万円 (— %) 2019年12月期第1四半期 △236百万円 (— %)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第1四半期	△15.25	—
2019年12月期第1四半期	△23.16	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第1四半期	5,644	4,570	80.9
2019年12月期	5,376	3,853	71.5

(参考) 自己資本 2020年12月期第1四半期 4,564百万円 2019年12月期 3,842百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	—	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,036	△67.7	△1,779	—	△1,794	—	△1,822	—	△156.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年12月期1Q	12,202,600株	2019年12月期	11,654,500株
2020年12月期1Q	5,124株	2019年12月期	5,124株
2020年12月期1Q	12,088,078株	2019年12月期1Q	10,224,652株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、創薬事業においては、アンメット・メディカル・ニーズの高い未だ有効な治療方法が確立されていない疾患を中心に、特にがん、免疫炎症疾患を重点領域として画期的な新薬の開発を目指して研究開発に取り組み、また、創薬支援事業においては、新たなキナーゼ阻害薬創製のための製品・サービスを製薬企業等へ提供するため、営業活動に取り組んでおります。

当第1四半期連結会計期間におきましては、当社の2つのBTK阻害剤ポートフォリオのうち、炎症性免疫疾患を対象として開発を進めているBTK阻害剤AS-0871について、2月にオランダ当局および倫理委員会からCTA (Clinical Trial Application, 臨床試験許認可申請) の承認を受け、臨床試験の開始が可能となりました。当該試験に必要な全ての準備が完了したことから、健康成人を対象とした臨床試験 (フェーズ1試験) を当第1四半期連結会計期間に開始する予定でしたが、欧州における新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、治験開始が延期となりました。今後、感染拡大の収束状況を注視しながら、2020年上期中に治験が開始できるよう計画・準備を進めてまいります。

イブルチニブ耐性の血液がんを治療標的とした次世代BTK阻害剤AS-1763については、米国での抗がん剤の臨床試験実施において患者様のリクルートに関する競争が激しくなっている状況を踏まえ、開発戦略を変更いたしました。具体的には、AS-0871のCTAにより欧州での自社臨床試験の基盤がすでに整っていることから、米国での治験から欧州での治験に計画変更して自社フェーズ1開始を加速させるとともに、より多くの患者様をリクルートしやすい中国に注目し、中華圏 (中華人民共和国および台湾) における開発・商業化の権利を中国バイオノバ・ファーマシューティカルズ (以下「バイオノバ社」という) に供与する契約を2020年3月に締結いたしました。今後、中国においてバイオノバ社が臨床試験を実施することになり、当社はバイオノバ社が実施したAS-1763に関するより多くの臨床試験データを収集・利用することで、AS-1763の治験を加速できるとともに、その価値をより早期に最大化できると考えております。これに伴い、米国でのIND申請 (Investigational New Drug application, 新薬臨床試験開始届) の計画を変更し、欧州でCTAを行うことにいたしました。AS-1763は現在当社が前臨床試験を実施しており、2020年中にCTA申請を行う計画です。また、中華圏における今後のAS-1763の開発進捗に伴い、バイオノバ社から最大で約205百万ドル (約215億円) を受け取ることとなります。さらに当社は、AS-1763の中華圏における上市後の売上高に応じた最大2桁の料率の段階的ロイヤリティを受け取ります。

当社が開発し、シエラ・オンコロジー社 (以下、シエラ社) に導出した、がんを標的とするCDC7阻害剤AS-141 (シエラ社の開発コード: SRA141) につきましては、導出先のシエラ社が、開発を引き続き前進させるため様々な選択肢を戦略的に検討中と発表しており、当社はSRA141の治験が早期に開始されることを期待しております。

創薬支援事業においては、当第1四半期連結累計期間の売上高は282百万円 (前年同期比65.9%増) となりました。2019年6月に創薬事業において締結した米国のギリアド・サイエンシズ社との新規がん免疫療法の創薬プログラムに関するライセンス契約に関連し、同社による当該プログラムの開発をサポートするため、当社の脂質キナーゼ阻害剤に関する創薬基盤技術を一定期間、独占的に同社に供与することとなり、当第1四半期連結累計期間の売上には、これに関連した売上も含まれています。当第1四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症の影響は、国内および欧米では大きくありませんでしたが、中国では1月、2月を中心に受注が減少いたしました。一方、中国ではすでに企業活動が再開しており、3月以降の受注は回復傾向にあります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は335百万円 (前年同四半期比97.1%増)、営業損失は165百万円 (前年同四半期は233百万円の営業損失)、経常損失は168百万円 (前年同四半期は235百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は184百万円 (前年同四半期は236百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失) となりました。

セグメント別の業績は次の通りです。

①創薬事業

当第1四半期連結累計期間において、バイオノバ社とAS-1763の中華圏におけるライセンス契約をしたことにより、契約一時金を受領いたしました。また、前臨床試験等に積極的に投資したことにより、研究開発費は296百万円 (前年同期比41.8%増) となりました。以上の結果、創薬事業の売上高は53百万円 (前年同四半期は売上高の計上なし)、営業損失は297百万円 (前年同四半期は263百万円の損失) となりました。

②創薬支援事業

キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービス及びセルベースアッセイサービスの提供等により、創薬支援事業の売上高は282百万円 (前年同四半期比65.9%増)、営業利益は132

百万円（前年同四半期比333.8%増）となりました。売上高の内訳は、国内売上が70百万円（前年同四半期比0.6%減）、北米地域は183百万円（前年同四半期比174.3%増）、欧州地域は14百万円（前年同四半期比11.1%減）、その他地域は13百万円（前年同四半期比12.6%減）であります。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は5,644百万円となり、前連結会計年度末と比べて267百万円増加しました。その内訳は、現金及び預金の増加313百万円等であります。

負債は1,073百万円となり、前連結会計年度末と比べて449百万円減少しました。その内訳は、1年内返済予定の長期借入金の減少18百万円、未払金の減少96百万円、未払法人税等の減少114百万円、長期借入金の減少49百万円等であります。

純資産は4,570百万円となり、前連結会計年度末と比べて717百万円増加しました。その内訳は、新株予約権の行使に伴う株式の発行による資本金及び資本剰余金の増加907百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失184百万円の計上等であります。

また、自己資本比率は80.9%（前連結会計年度末は71.5%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月7日公表の「2019年12月 決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載の2020年12月期の連結業績予想に変更はありません。

本連結決算短信公表時点までにおいて、新型コロナウイルス感染症の当社の売上および事業活動への影響は限定的ですが、今後の感染拡大の状況、世界各地での外出制限の長期化などの状況によっては、連結業績予想に影響がある可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,915,056	5,229,044
売掛金	117,499	108,179
商品及び製品	62,864	66,275
仕掛品	10,266	7,665
原材料及び貯蔵品	26,284	15,217
その他	142,921	122,189
流動資産合計	5,274,893	5,548,572
固定資産		
有形固定資産	29,799	31,324
無形固定資産	234	4,270
投資その他の資産	71,683	60,353
固定資産合計	101,717	95,947
資産合計	5,376,610	5,644,519

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,173	3,559
1年内償還予定の社債	28,000	28,000
1年内返済予定の長期借入金	270,972	252,925
未払金	276,120	179,306
未払法人税等	120,822	6,814
その他	356,073	198,915
流動負債合計	1,055,162	669,520
固定負債		
社債	88,000	74,000
長期借入金	341,784	292,088
資産除去債務	36,255	36,401
その他	1,886	1,850
固定負債合計	467,926	404,340
負債合計	1,523,088	1,073,860
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,657,466	5,111,327
資本剰余金	3,475,491	3,929,352
利益剰余金	△4,289,192	△4,473,591
自己株式	△222	△222
株主資本合計	3,843,543	4,566,865
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△354	△551
為替換算調整勘定	△496	△1,787
その他の包括利益累計額合計	△851	△2,338
新株予約権	10,830	6,131
純資産合計	3,853,522	4,570,659
負債純資産合計	5,376,610	5,644,519

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年3月31日)
売上高	169,964	335,043
売上原価	43,917	38,451
売上総利益	126,046	296,591
販売費及び一般管理費	359,166	461,667
営業損失(△)	△233,119	△165,076
営業外収益		
受取利息	5	58
受取配当金	93	96
助成金収入	—	785
為替差益	530	1,430
その他	22	22
営業外収益合計	652	2,393
営業外費用		
支払利息	2,074	2,234
支払保証料	455	371
株式交付費	858	3,318
その他	27	12
営業外費用合計	3,415	5,936
経常損失(△)	△235,883	△168,619
特別損失		
減損損失	—	15,107
特別損失合計	—	15,107
税金等調整前四半期純損失(△)	△235,883	△183,727
法人税、住民税及び事業税	970	707
法人税等調整額	△38	△35
法人税等合計	931	671
四半期純損失(△)	△236,814	△184,399
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△236,814	△184,399

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
四半期純損失(△)	△236,814	△184,399
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	248	△196
為替換算調整勘定	313	△1,290
その他の包括利益合計	561	△1,486
四半期包括利益	△236,252	△185,886
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△236,252	△185,886

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

株主資本の著しい変動

当第1四半期連結累計期間において、新株予約権の権利行使により、資本金が99,505千円、資本剰余金が99,505千円増加しました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末において、資本金が3,691,074千円、資本剰余金が2,509,099千円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)

株主資本の著しい変動

当第1四半期連結累計期間において、新株予約権の権利行使により、資本金が453,860千円、資本剰余金が453,860千円増加しました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末において、資本金が5,111,327千円、資本剰余金が3,929,352千円となっております。